

第68回 男鹿駅伝競走大会イベントレポート（第2回：2区）



2区スタート付近 門前の風景（写真提供:男鹿なび）

【第2区】

レースは1区の好走を引継ぎ、先頭の学生を視野に捉えながら2区へ。

まず、この駅伝における2区の役割であるが、昨年までは3区～4区にまたがるコースであり、フラットで距離の長い3区とアップダウンの過酷な4区で両区間がエース、準エース区間であったが、コース変更により、約12kmの距離に過酷なアップダウンが加わり、この2区がエース区間となった。

2区はレース序盤のため、そこまで選手間の大きなタイム差がついていないことから、駅伝の流れを決める上での役割は非常に大きく、また、走り出して2kmは海岸線を走るが、そこからの5kmは高低差200mを駆け上がり、更に後半は高低差150mを駆け下らなければならない厳しいコースのため、走力、脚筋力だけでなくアップダウンへの適性も求められる。

当社は、一昨年の大会まで長らくこの区間に石原という絶対的な存在を配し、安定的なレースを進めていたが、この区間を自信を持って任せられる後継者不在が課題となっていた。

そこに今年一人の逸材が入社してきた。今年の箱根駅伝で関東学生連合チームの2区エース区間を走った長野県出身の西沢である。

西沢は、1区を走った親崎の大学の後輩にあたり、入社後は資材部電子デバイス資材課に所属し、同事業で使われる部材を調達する業務を今後担当するために修行の日々を送っている。

ShinDengen



2区：11.7km（椿漁港～加茂（桜島 駐車場））



門前ナマハゲ立像（写真提供：男鹿なび）

レースは、1区 親崎の快走により、先頭を伺える全体2位の好位置で2区に渡り、初出場の西沢は入社後初の駅伝で、早々にその実力と真価が問われることとなった。

今年のレポートは、この後、走った選手の直筆感想からレースのリアルな実況をお届けする！！

<<西沢選手レポート>>

6月13日～19日まで、東日本実業団連盟合宿があり、そこでは絶好調で自分の走りに自信が出てきていたが、絶好調だった反面身体へのダメージが大きく、合宿を終えてから、なかなか疲労を抜くことが出来ずにいた。

6月25日の男鹿駅伝前に最後の調整練習を行ったが、身体の動きが悪く、いつもの走りを出来る状態ではなかった。

しかしながら、それから男鹿駅伝までの間に最低限の練習だけを行って疲労を抜き、調子を少し回復することが出来、万全の状態には程遠いが、何とか走れる状態まで戻した。

男鹿駅伝の前日に車でコースの下見を行ったが、登りが急で距離が長いという悪い印象が強く、「こんなの無理だろ・・・。」と正直思ってしまったが、東日本実業団連盟合宿での登りの練習とロード走は走れていて自信があったので、「結構やれるんじゃないか」と変な自信もあった。

私はレース前だからと言って何か特別なことを行ったりはしないので、いつも通りにだらだらしながら付添いの八木沢さんと話したり、スマホをいじって出番を待っていた。

その際にちょっとしたハプニングが発生。中継所のトイレに行ったところ、トイレットペーパーが無く、更には近くにトイレはそこ以外に無かったため、これは終わった・・・と思ったが、なんやかんやで何とかなった。



軽快に登りを走る西沢

それからいよいよ出番となり、走り始めたが、レース中は落ち着いていて、序盤に後ろを走る東洋大学Bの選手に追いつかれる展開となっても、焦ることなく自分のペースを維持し続けることで、最終的には大差を与えることが出来た。

また、疲労が残っている中でのレースだったため、登りで前との差を縮めることはせず、残り3kmの下り坂で勝負をすることを考えていた。

走っている最中に一番気にしていたのは先頭との差で、見える位置にいることを意識し、次に気になったのは監督車だ。

監督車には前田監督、鈴木社長、堀口工場長が真後ろで私の走りを見ていたので下手な走りは出来ないと思いながら走っていた。



白バイの先導を受ける西沢

男鹿駅伝の2区は私の競技人生で飛び抜けて険しいコースだった。

初めて見た時は、「人が走って通るところではない・・・」と思うレベルだったが、実際走ってみて、あらためて「人が走るところではない」と再確認出来た。

しかし、このコースで良い走りが出来たことは自信につながるいい経験になったと感じる。

今回のレースで反省するところは、ほとんどなく、毎回このような落ち着いたレースをしたいと思った。

3秒差で区間賞を逃してしまったのは少し悔しかったが、来年は今年より速く走り区間賞を取って帰りたいと思う。



西沢の終盤の走り

今後は、5月から合宿とレースを交互にやってきて、やっと1つの目標であった男鹿駅伝が終わったので、少し身体を休めたい気持ちもあるが、北海道で開催されるホクレンディスタンスチャレンジや東日本実業団対抗駅伝と重要なレースがあるので、良い結果が出せるようにこれまで以上に頑張っていきたい。

最後に、秋田県での駅伝でしたが、遠くから応援に駆けつけて下さった当社の方々や秋田新電元からサポートや応援に来て下さった方々には非常に感謝しております。

沿道からの応援や車からの応援、非常に力になりましたし、最後まで全力で走り切ることが出来たのは声援があったからです。

これからも応援に応えられるように日々努力していきたいと思っております。

(終)



2区 西沢 ⇒ 3区 渡辺への襷リレー

【2区成績】一般の部

距離 : 11.7km

順位 : 2/41位 (大学を含む全体順位 : 2/52位)

タイム : 36分42秒 (目標タイム : 新コースのためタイム設定無し、全体1位)

- ※ 西沢選手のレポートいかがだったでしょうか。
彼の、何事にも動じない、常に平常心で堂々とした姿や走りから、その大物ぶりの一端を感じさせるレポートではなかったでしょうか。
また、選手たちがレース中に何を想い感じて走っているかが分かって頂けたと思います。
まだまだ入社したばかりの西沢選手とチームの益々の活躍をご期待下さい！！

以 上

- ※ イベントレポート (第3回 : 3区) へ続く